



TITLE:

七月の天象

AUTHOR(S):

---

CITATION:

七月の天象. 天界 1929, 9(100): 363-365

ISSUE DATE:

1929-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161437>

RIGHT:

## 七 月 の 天 象

### 太 陽

月始め巨蟹宮に在り、22 日より獅子宮に侵入する。

日	赤 經	赤 緯	星 座	視直徑	北極の傾	赤道の位置
10	7時17分	北22度17分	ふたご	31分31秒	東へ1度	南へ4度
20	7 57	20 43	か に	31 32	6	5
30	8 37	18 35	ク	31 34	10	6

4 日に地球が遠日點を通過するので、視直徑は最小の31分 30 秒 72 になる。

### 月

月の相	時 刻	星 座	視直徑
新 月	7日午前 5時 47 分 0 秒	ふたご	33分25秒
上 弦	14 午前 1 5 0	おさめ	30 44
満 月	22 午前 4 20 42	や ぎ	29 34
下 弦	29 午後 9 55 49	ひつじ	31 38
近地點通過	6 午後10 0	ふたご	33 26
遠地點通過	20 午前 1 24	い て	29 26

月は4日午前2時に金星を追越す。丁度日本からも見えるが距離角4度故少し離れ過ぎてゐる。續いて同4日午後4時に木星を追越すが、其の頃は見えない。次に5日午後7時に水星と合さなり、其の北側を通るが、これも見えない。ついで10日午前4時に海王星を追越し、つゞいて同日午前10時に火星を追越すが、共に見る事は出来ない。又た、19日午前9時に土星と出合ふが、これも見えない。最後に28日午前0時に天王星と出合ふが之は見ることが出来る。即ち此の時、月は天王星の南側2度の距離をすれ違ふ。そして此れを最後として、今月の遊星歴訪を終る。



## 恒星界

南の空からさし込む日ざしも、4日を限度として、又た再び日毎に延びる様になる。それと同時に書間も亦た徐々に短くなつて来る。

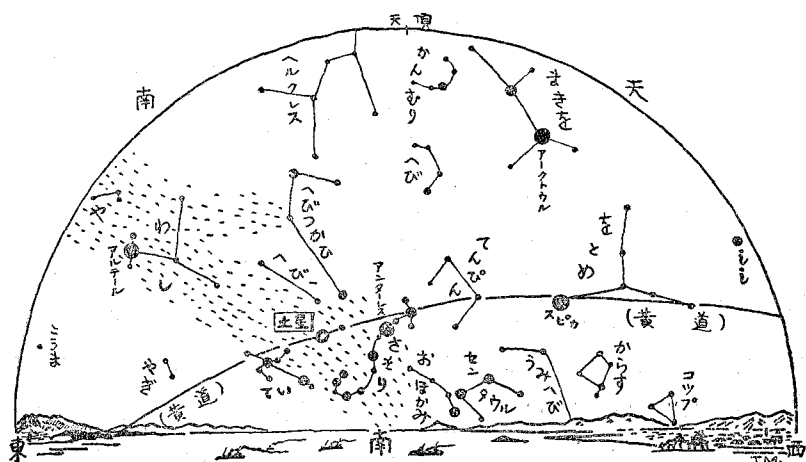
2 日に火星がレグルスに接近し、次いで3 日に火星は海王星とも接近するので一寸面白い見物である。

愈々夏の諸星座が高く上つて來た。銀河が東より南北に貫いて、此れに沿ふカシオペア、セフェ、<sup>1</sup>「はくちよう」、「や」、「わし」、「いて」、「さそり」、「おほかみ」等の夏の代表者も凡て揃つた。殊に七夕で親しみの深い「わし」のア星と「こさ」のア星とは、愈々親望に都合がよい。

一方また、春の星座の「しし」や「おさめ」は西の空に残つてはゐるが、もう景淡い。此等につゞいてヒドラ、「からす」、センタウル等も沈んでゆく。

天頂にはヘルクレス、「まきな」、「ほくかん」等が位置を占め、北極を取りまいて「りゅう」、「おほくま」、「きりん」等が、靜かに靜かに廻つてゐる。

兎に角、今月の見物は上記の火星と、土星とである。而も土星も宵の間暫らく待てば東に登つて來るので見る時間も先月より、ずっと都合がよくなつてゐる。



## 遊 星 界

水星 3 日に西方最大離角 21 度となる。従つて勿論曉の東天に見える。併し其の後は次第に太陽に近づき、遂に 31 日には之れと外合となる。月始めの視直徑は 8 秒、月末は 5 秒。光度は負 1 等。「うし」座から「ふたご」座を通過して「かに」座の東端まで進む。

金星 曉の星で「うし」座の東端から西端へ順行する。其の途中 14 日に木星と合。木星の南側 2 度半の所を通過して追越す。視直徑は月始め 23 秒が、月末には 18 秒となる。光度は大體負 4 等。午前 2 時頃には既に東に登る。

地球 4 日に遠日點を通過する。

火星 3 日に海王星と合となり、其の北側僅かに半度の所を通過する。其の後も順行を續けて月末には「しし」座東端に達す。視直徑 4 秒。光度 2 等。

木星 夜半後の出現。14 日金星と合。視直徑 33 秒。次第に大きくなる。

土星 「いて」座西端の銀河中を逆行す。まだ視直徑は 16 秒を維持して、光度も零等故觀望の好機である。

天王星 17 日留となり、次後逆行に移る。光度 6 等。視直徑 3 秒。

海王星 3 日に火星と合。光度 8 等。視直徑 2 秒。宵の星なり。